

東京日々新聞

九百七十五号



深し強淫せんと
 乗り掛るとおま
 く尚もあふら
 す勿ね起て逃ん
 せし清十郎の隠

木挽町田毎と云ふ
 料理茶屋へ近ごろ
 柳来る左官清十郎
 と云ふ男が馴染の藝者金春
 のおとくと呼びて酌とせつ夜と

大豪と騒ぎ出すよ
 清十郎の庭へ飛
 ぶ折戸破
 ちて



甲 貝足屋 渡辺彫米



遺失せたり三月世日明の事なりと
 ぞ全体此男の養子にて内々の
 おとくと廿一才ある然も此
 藝妓と同名の細君もある
 と云事あり

